



令和2年度 さいたま市立土呂中学校 学校だより

見沼のほとり

第 5 号

令和2年7月31日

学校教育目標

主体的に生きる人間の育成 <意欲・健康・豊かな心>

最上級生としての矜持

校長 富田 敦

今回、北区交流親善試合を開催していただき、ありがとうございました。本来、6月に行われる学校総合体育大会が新型コロナウイルスの影響でできなくなってしまい、チームの目標がなくなってしまいました。そのような中、北区の校長先生や顧問の先生方のおかげで最後の試合を行うことができました。また、今日まで部活動のサポートや試合の応援をしてくれた保護者の皆さまに感謝しています。部活動では、楽しいことやつらいことがたくさんあったけど、チームのメンバーとともに、最後までやりきることができ、私にとってかけがえのない思い出となりました。3年生は、今日で引退することになりますが、部活動での経験を生かし、自分の目標に向かってがんばっていかうと思います。最後まで応援していただき、ありがとうございました。

※北区交流親善試合…中止となった学校総合体育大会の代替として行った区内5校の合同練習試合

これは、ソフトボール部 山碕 愛花 部長が北区交流親善試合の終わりの会の時に話した言葉です。参加した4校の代表として選手、保護者、先生方の前で思いを伝えてくれました。

山碕さんとは後日、「最後にいい話をしてくれましたね」と話をしました。「部活動をいい形で終わることができました。荒川総合運動公園のグラウンドで大会ができなかったことは残念でしたが、1つのボールを追いかけて、3年生から1年生までのみんなで協力し、声を出して応援することができました。卒業した先輩方も応援に来てくれました。1年前、強かった先輩たちが負けてしまって県大会に行けなかった日から、私たちは先輩の代わりに県大会に行くことを目指して練習してきました。部長になったころは不安でいっぱいでした。同級生や下級生とはうまくいかないことばかりで、毎日家で泣いていました。そんな時は父や母、顧問の齋藤先生が相談に乗ってくれたり励ましてくれたりしました。私が最後まで部長をやり抜くことができたのはそういう支えがあったからです。でも、同級生や下級生とはぶつかりながら高めあうことができました。いい仲間になりました。チームのみんなには、今は『ありがとう』という感謝の気持ちでいっぱいです。今日、後輩たちには『いい景色』を見せることができたと思っています。中学校生活最後の試合、『打ちたい』『負けたくない』という気持ちが私たちに焦りを生んでいました。相手はとて素晴らしいピッチャーで、最終回 2-4 で負けていました。そこで出た1本のホームラン、その1発に私たちは勇気を得て、当たらなかった速球にも何とか食らいつくことができました。その結果、一気に6得点、逆転勝ちすることができました。今、私は勝ったことよりも、流れがこちらに来た時の景色を後輩たちに見せられてよかったと思っています。」

山碕さんが代表として話してくれた内側にはこのような思いがいっぱい詰まっていた。

今回の北区交流親善試合において、参加した3年生の表情は生き生きとして精悍でした。充実感にあふれていました。前号で生徒会長や部長の「私たちには後輩に伝えなければならないことがある。やる気と誇りをもって後輩の目標になろう。背中を語ろう」という土呂中学校最上級生としての決意を紹介しました。1日おきの練習や試合を通し、その思いは下級生や応援して下さった保護者の皆さま、先生方に確と伝わりました。

「引退したくない…」と言いながら家路に向かう3年生の後ろ姿に先生方も同じ思いだったといいます。

男子卓球部 宮島 大樹 部長は、私に笑顔でこのように話してくれました。「北区交流親善試合ではベストを尽くすことができました。臨時休校で学校総合体育大会が中止になってしまった時は、正直、やる気をなくしていました。しかし、北区交流親善試合という新たなゴールに向けて気持ちを立て直し、ゴールに向かって練習に取り組むことができました。最後まで仲間と協力し、お互い高めあったのはいい思い出になりました。最後に強い学校に勝ったことも自信になりました。最後までやってよかったです。」